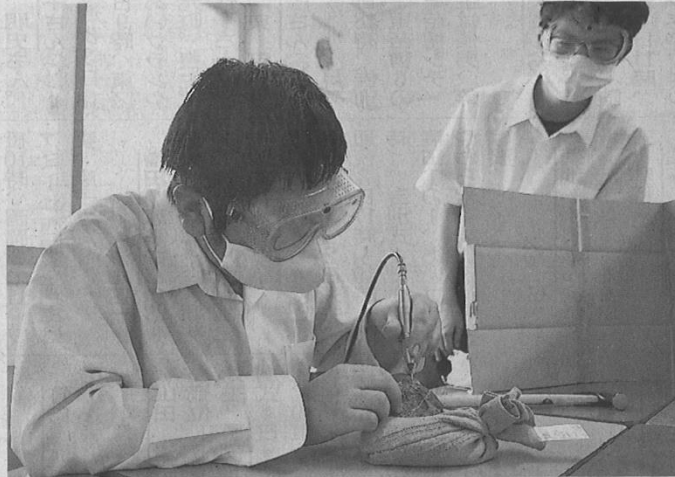


金曜 学ぶ・育む



2003年にむかわ町穂別地区で化石が発見され、19年に新種の恐竜として認定された「むかわ竜」。地元の鷓川高校では恐竜研究同好会が「恐竜の町」を盛り上げようと活動する。

6月中旬、部室を訪れると、ジーンという機械音が響いていた。岩の塊から貝の化石を削り出すクリーニング作業だ。コンプレッサーにつながれたチゼルと呼ばれる細い針を使って、化石を傷つけないように少しずつ岩を削る。部長の上野伊吹君(3年)は「何百万年も昔の物に直接触れていると思うとワクワクする」と話す。

化石は地元のボランティアが無償提供してくれたもの。顧問

鷓川高恐竜研究同好会 (むかわ町)

「恐竜の町」盛り上げへ調査・発掘



①化石のクリーニング作業の様子
②恐竜研究同好会のメンバーいずれもむかわ町

の水尾悠起子教諭(30)は「クリーニング技術は研究に使えるレベルには達していないが、作業を通じて化石を研究する大変さを知ることが狙い」と話す。

同好会は18年設立。クリーニング作業のほか、地元の穂別博物館で学芸員から恐竜の知識を学び、発掘作業にも出かける。この春には2人の新入生を迎



化石削り出し好奇心にタッチ

え、メンバーは総勢4人になった。新入生の佐藤由衣斗君(1年)は穂別博物館でむかわ竜の化石を見て、大きさに驚いたという。中学生の時に学校説明会で同好会を知り体験入会もしていた。希望通り進学が決まり「卒業までに自分の手で恐竜の化石を発掘したい」と意気込む。

設立のきっかけは町をあげて恐竜をPRしようという機運の高まりからだ。町は17年に、恐竜に関するイベントの企画などを担う「恐竜ワールド戦略室」を設置。同校では「むかわ学」という授業で、恐竜を使った町おこしについて学ぶことが決まった。さらに興味を持った生徒向けに、理科の教諭が顧問を務める同好会ができた。

19年度には町が道内の小学生を対象に恐竜発掘体験のイベントを7回ひらき、同好会のメンバーも運営を手伝った。上野君は「化石発掘に夢中になる小学生を見て、恐竜は町の財産だと思った。もっと多くの人に町を訪れてもらえようPRしたい」と話す。

今年度の活動目標は、活動の成果を目に見える形で残すこと。恐竜を専門に研究する北大総合博物館の小林快次教授の指導の下、日本古生物学会で行われる高校生対象のポスター発表で「むかわ竜」を紹介するための準備を進めている。

(榎場勇太)